

専修大学 経営学部 情報管理学科

1. 歴史的背景

専修大学は明治13年創立以来、100余年の歴史をもつ人文・社会科系総合大学であって、法学部、経済学部、商学部、経営学部、文学部の5学部から構成されています。キャンパスは、小田急線の向丘遊園にある生田校舎と、神田神保町にある神田校舎とであって、神田校舎は法学部2年生以上と2部の学生の教育に用いられており大学の本部もそこにおかれています。

経営学部は昭和37年に設置され、計数に明るい経営専門の学生の養成を目指して、数学を必修にするなど、自然科学の科目を重視していました。経営学部の設置に先立って、昭和36年には、他の文科系大学に先駆けて、コンピュータ(OKITAC-5090)の導入を行なっています。

今日の情報化社会の到来を予見して、新設経営学部内に「情報処理コース」を設置し、この分野の教育指導に着手しました。このコースを発展させ、昭和47年に発足したのが「情報管理学科」であります。

2. 情報管理学科における教育内容

カリキュラムは創設以来いくたびか改正されてきましたが、教育目標、あるいはその理念は今日にも続いているといえましょう。

「経営(社会)の問題を数理的に分析し、コンピュータを用いて解決できる人材の養成」がこの学科の教育目的であります。この目的のためには、大別して、3つの領域についての教育学習が要求されます。それらは、

経営関連領域(経営学、会計学、マーケティング、経済学)

数学関連領域(数学、数理統計学、OR、情報理論)

コンピュータ関連領域(ハード、ソフト)

であります。

これらの領域間には図1に示すような有機的関連があるものとしてとらえ、科目展開、教育の実施面にもこのことが反映するよう努めています。

個々の学生の選択や指導教員の専門分野に依存して、

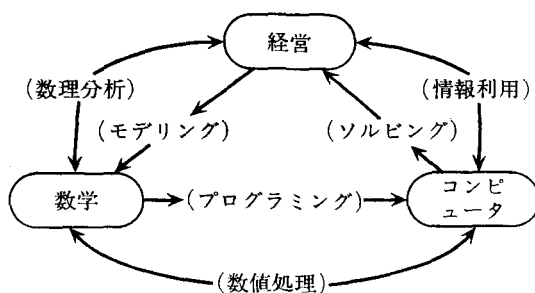


図 1

これら3領域およびそれらの関連につけられる学習・教育上の重みづけはさまざまです。これらの3領域をそれぞれ、

営(エイ、英でなく)、数(スウ)、コン(コク、国でなく)として、図2のように、教育・学習の類別ができます。

この学科では、3年次、4年次に引き続いて同一指導教員の指導を受けて「卒業研究」を行ない、コンピュータを用いた「卒業論文」を提出することが義務づけられています。卒業研究の担当教員は、指導学生の履修上の指導・相談にも応じることになっているなど、この学科では卒業研究が重視されています。また、卒業研究の担当者が「情報管理運営委員会」を構成して、学科の運営についての協議がなされています。

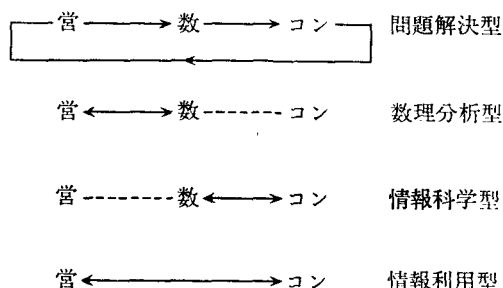


図 2

3. 教員スタッフ

昭和61年度の卒業研究担当者とそれぞれの指導範囲は表1のとおりであります。

これまでに、かつてこの学科に所属されていた教員には、下記のかたがたがおられます。

湯浅光朝、武隈良一、岡崎文次、大熊 正(故人)、大河内正陽、鳩山由起夫

退職教員の補充、学科の教育・研究の充実のために、専任教員の公募が行なわれてきましたが、62年度にも専任教員の公募があることでしょう。

4. 関連機関「情報科学センター」の紹介

本学では、文部省の補助金を受けて、コンピュータ・システムを導入、技術進歩に合わせ、教育・研究上の利用方法を考慮しながら、何回か更新してきました。コンピュータの利用が全学的に広まることに対応して、「教育指導室」「センター事務課」と、既存の「情報科学研究所」を統合して、昭和60年に「情報科学センター」を発足させました。各学部の正課の教育支援施設として機能し、またセンター独自の教育活動も行なっています。

研究面では、情報科学分野の研究に関係する全学の教員の研究支援機関として機能しています。(坂本 実)

表 1

担 当 者	指 導 範 囲
伊 東 洋 三	ゲームの理論、数量経済分析
今 居 謙 吾	需要構造の解析・予測および経営計画の立案
瓜 生 等	微分方程式および差分方程式の応用、数値計算
岡 祐 紀	ソフトウェア工学
奥 田 和 彦	消費者行動の計量的研究
韓 豊太郎	情報のデータ構造
蔵 下 勝 行	経済予測
斎 藤 雄 志	エネルギー経済とモデル分析
坂 本 実	オペレーションズ・リサーチ
崎 野 滋 樹	多変量解析の基礎理論と自然科学、社会科学領域への応用
佐 藤 創	データ圧縮と統計的予測
高 津 信 三	経営工学・経営システム工学
竹 村 憲 郎	経営情報システム、OAシステムの開発
内 藤 豊 昭	コンピュータの各種問題への適用
林 勲	EDPシステムの分析と設計
森 克 美	ORモデルのコンピュータによる分析
本 江 涉	経営管理システムの設計、経営分析

日本大学 生産工学部 —千葉のOR基地をめざして！

1. 日本大学の理工系学部

日本大学全体の概要を紹介するには、組織が余りにも大規模なためにOR学会に「日本大学特集号」をお願いすることになるので、わが生産工学部ORチーム(推定約4名)が一致団結した結果、ここでは日本大学の概略と理工系3学部の存在を会員の皆様にご存知いただく機会を持ちたいと思います。さらに、理工系3学部の中でもユニークな存在である生産工学部を中心としたOR教育・研究活動の一環を紹介したいと思います。

日本大学は明治22年(1889)に創立され、現在ではわが国最大の総合大学となり、大学院14研究科、大学専攻1科をはじめ、法・文理・経済・商・芸術・国際関係・医・歯・松戸歯・農獣医と理工系3学部と言われる理工・生産・工の13学部、通信教育部4学部、短期大学部

7科、さらに原子力研究所、司法研究所、総合科学研究所、教育制度研究所、国際研究所等研究所・実験所35カ所など、多数の研究機関と付属高校をもつ大きな規模であると大学案内に記されてあります。

理工学部(東京神田 駿河台校舎、千葉県習志野市 習志野校舎)、生産工学部(千葉県習志野市 大久保校舎、同実硯校舎)、工学部(福島県郡山市)が理工系3学部と言われ、それぞれが特色をもった学部として日本大学の一翼を担っています。

2. 生産工学部とOR

生産工学部の特色の1つは、基礎理論の学習に並行して、生産現場における実習を体験させることにより、理論と生産技術との密接な関連性を身をもって修得するために全学科とも3年次の必修科目として生産実習を義務